



29	事業所の支援に満足していますか。	18	1			<p>・集団と個別の両方が出来るのでいい。          ・通所してよかったと思う。</p>	<p>・活動などを通して共同療育を行うことで相手やまわりを意識して過ごすことが出来るように支援している。</p>
----	------------------	----	---	--	--	--	--

## 事業所における自己評価結果

公表		事業所における自己評価結果					
事業所名		てらびあぼけっと太田教室					
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			・広い空間で多岐にわたる療育を行うことを意識して取り組んでいる。	・広い空間で危険やけがに気を付けながら支援を行っている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			・概ね1府対1で支援しているので適切。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			・危険な箇所をクッション素材のもので補強。	・定期的にカ所の確認を行い、常に危険のないようにしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			・清潔に保つよう日々掃除をしている。	・このまま継続して行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			・こどもの数に対応出来る十分な個室を備えている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1		・不定期であるが、職員会議を行い出来るだけ多くの職員の参加を促して実施している。	・時間を作り、定期的出来るようにする。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			・朝礼の時に共有。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		・管理者の面談により把握している。	定期的に行えるようにする。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1		公表されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	1		・児発管によりこども園の状況を聞き取ったり、それを五社と共有して作成されている。	・全員が把握し情報を共有している。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	4		・定期的な見直しがされている。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		・計画を事前に回覧。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			・朝礼の時に実施。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	3		・1人ひとりの状況に合った計画がなされている。	
	17		6				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			・集団や個別を取り入れ、状況に応じてフレキシブルに対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1		・朝礼の時にやっている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			・朝礼の時にやっている。		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			・毎日記録を取っている。		
23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7					

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	・こども園との連携がなされている。・園から見学に来ることもある。	・今後も継続していきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・要望に応じて行われている。	・不安や心配のある保護者にはこちらから声掛けを行い、相互理解出来るようにする。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		・地域との関わりが正直ないので難しい。機会があれば…と思う。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	せらびーの一を通して情報共有。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	2	・契約時に説明。	・その他必要に応じて行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・保護者にきちんと説明されている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		・保護者にきちんと説明されている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしている		7		・集まる機会がないので、今後機会を作っていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		・出来るだけ時間を併せて話を聞く体制、環境を作っている。	・今後も継続していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・LITALICOやインスタ等で活動内容を適宜発信。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		・避難消火訓練を年2回実施。	・その他状況に応じて行うようにしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		・契約とモニタリングの時に確認。	・その他、体調不良等で欠席した後に声を掛け、把握できるようにする。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・基本的に食べ物の提供はしないが、情報共有で全職員に知らせる。	・食べ物の提供がある時には、該当する利用児の保護者全員に確認をする。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・ノートに随時記録。	・書くだけではなく、活かしているようにする。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		・研修の時に各自学んでいる。	

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、ごどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	4	・実際に行ったことはない。	・実際に身体拘束を行ったことはない。
----	--	---	---	---------------	--------------------

## 事業所における自己評価総括表

公表			
○事業所名	てらびあぼけつと太田教室		
○保護者評価実施期間	令和7年10月7日		～ 令和7年10月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年12月8日		～ 令和7年12月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月11日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いフロアでのびのび体を動かして先生やお友達と遊ぶことが出来る。	死角になってしまいう場所にはゲートを設置してお子さまだめでは入り込めないようにしている。活動だけではなくあそびの時間にも先生やお友達と自由に体を動かすことが出来る。	テンションが上がり過ぎてしまい、危険な場面も見られることがあるのでケガなど未然に防げるように配慮しながら過ごせるようにする。
2	1対1での丁寧な対応。	様々な現場で経験のある職員がいることもあり、その時々に応じた状況に細やかに対応することが出来る。翌日の朝会での前日の振り返りの際に全職員で1人ひとりのことを情報共有し次回の来所時と同じ対応で安心して過ごすことが出来るように環境を整える。	今後も翌日の朝礼での情報共有を行っていく。また、ご家族から聞いたお話も今と変わらず全員で共有していくようにする。
3	活動の時間を設け、そのなかで毎回必ず共同療育を取り入れている。	各クール、年齢層や来所するお子さまに合わせた内容に物を大体2つやるようにしている。体を使うものやカードを使うゲームなど様々なものを取り入れてルールや順番、勝ち負け、お友達への興味関心などを高めていけるようにしている。	活動を通してさらにお友達との関わりが多く見られるようになってきた。今後も継続して行っていきたい。内容もその時々に応じたもので楽しみながら行っていきたい。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	会議を行う時、全員集まるのが難しい。	療育中の時間に行うとなると、手薄になってしまい難しい。昼休みは送迎で時間が出てしまう職員もいるため、うまく時間が取れない。	朝礼の時間に時間配分を工夫して一緒に行えるようにしていく。手が空いている時期にだけでなく、定期的いきちんで行うようにする。
2	フロアが広いので、怪我につながる動きが見られることがある。	広いのでいい反面、楽しくなりテンションが上がり過ぎてしまい危険と感じる行動も多々見られる。	特に大きいお子さまの時間帯に多く見られるので、その都度声掛けを行うこと、未然に衝突など防ぐことが出来るように十分にかい慮する。
3	事業所のすぐ横が交通量の多い道路。	駐車場でご家族と手を繋ぎず歩いたり走っているお子さまがいる。	安全のため手を繋ぐように声掛けは行ってから降所してもらってはいるが、徹底されない。突発的な動きで事故につながることも考えられるので、その都度声掛けや年度初めに公式LINEで配信して周知を行う。